

ブンゲン (1259.7m)

今シーズンの山スキーの2つ目はブンゲンにした。ブンゲンは伊吹北部に位置する山で国見岳(1126m)、虎子山(1183m)を経てブンゲンに連なっている。さらに西は金糞岳に東は貝月山(1234m)に繋がっている。金糞岳の山スキーは途中敗退したままであるが、虎子山には昨年国見岳スキー場から山スキーで登り、貝月山は過去2回山スキーで滑っている。無積雪期のブンゲンには粕川西谷経由で2011年6月に登っているが山スキーの経験は今回が初めてである。

今回の予定は北西尾根から登り、奥伊吹スキー場を経由して戻る予定であったが、先日の南岸低気圧による大雪のため積雪量が30~40cmほど増えていたため、出発後の早い段階で計画を変更した。

駐車場から予定通り「若竹荘」の裏へ回ると切り開かれた広い斜面を登っている複数のスキーと靴のトレースがあった。初めトレースがないと思っていたので、このトレースがあれば楽に登頂できると安易に考えた。少し登ると2つのダンロップテントが設営してあった。トレースは彼らのものらしい。

トレースを追っていくと眼下に谷に下っている数名の登山者が見えた。トレースがあちこちに分散しているので迷走している様子である。地図を見たりして検討している。しばらく観察していると、橋を渡って行く様子から夏の登山ルートを見つけたようである。彼らを追うべきかどうか迷ったが、この積雪量ではブンゲン頂上にたどり着けないか、もしくは午後の遅い時間(2時以降)になると判断し、計画を変更してブンゲン登頂を優先することにした。天候も曇り空で風が強く寒かったのでこのルート変更はよかったと思っている。

変更ルートは、谷へは降りずそのまま尾根に沿って登り続け第9ペアリフト終点を目指した。そして途中からグレンデ横を登って第10リフト終点まで登った。そこから先はグレンデを離れ、雑踏のない本来の自然の中に踏み込むことができた。稜線付近は曇り空で風がかなり寒かった。行動中、晴れ間はなかった。

トレースのない雪の稜線をルートを探しながらアップダウンしてブンゲン頂上に至った。頂上には12時少し前に到着、頂上は1.5メートル程の積雪に覆われていた。ほんの5cmほど出ているオレンジの棒を見つけたことから積雪量を知ることができた。沢登りのときにオレンジの棒を確認していた。稜線に続く虎子山や伊吹山、貝月山、国見岳スキー場などがぼんやりと見えた。谷に下りていったパーティが気になりなり北西尾根を見下ろすが姿は見えない。休憩後、来た道をたどってスキー場へ戻りグレンデを楽しみながらゆっくり滑り降りた。



若竹荘



第10リフト終点付近



ブンゲン頂上



頂上稜線



貝月山



新雪を滑る